

## 情勢報告（平成28年12月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

日高村のトマト産地拡大のために－生産者、関係機関が環境制御技術の先進地事例を学ぶ－



トマトパークで栽培方法などを調査中

12月8日、日高村のトマト産地拡大に関わる生産者やJA、役場、県など関係者10名が、栃木県の先進地事例調査を行いました。当日は、高軒高ハウスで環境制御技術を利用した栽培を行う（株）誠和「トマトパーク」と「ゆめファーム全農」を訪問しました。参加者からはオランダ型の温度・炭酸ガス施用などの環境制御による管理、施設装備、収量40t/10aの土耕栽培のポイントなどについて、多くの質問が出されました。

普及所では、事前に調査先の選定や日程調整、参加呼び掛け、調査先の資料準備など、有益な調査とするための準備も行いました。

今後、調査結果を生産部会に報告するなど、環境制御技術の普及や産地拡大のため支援していきます。

茶の生産性・品質向上を目指して－佐川町で自走式茶園管理機の実演－



自走式茶園管理機を操作する生産者

11月29日、佐川町二ツ野地区で、茶業試験場と当普及所のプロジェクトとして、自走式茶園管理機の検討会を開催し、茶生産者など15名が参加しました。

試験場職員による実機の説明と整枝作業の実演の後、職員による指導のもと、生産者が管理機を操作し、整枝作業を行いました。生産者からは「操作は進行方向の調整などやや難しい部分はあったが、わずかな時間で操作できるようになり簡単でした。茶園管理作業が楽になる可能性がある」との感想がありました。

高吾地域は高樹齢の茶園が多く、深刈りや中切りによる整枝作業により、茶葉の品質向上が可能となります。当普及所では、今後も茶栽培管理作業の改善や品質向上のために、取り組んでいきます。

村の駅ひだか「さんさん市」の売り上げアップに向けて勉強会を開催



皆さん、熱心に勉強中

11月29日、普及所は、村の駅ひだかの直販所部門である「さんさん市」の勉強会を開催しました。リニューアル後3年目となる、本年10月には来客数が40万人を突破するなど、順調に売り上げを伸ばしていますが、さらなる売り上げアップを目指して、荷姿の改善や生産物の栽培時期の調整に取り組んでいくため実施しました。当日は29名の出荷者が参加し、「サツマイモの苗を自分でたてて栽培したい」「変わった品種の種はどこで手に入るのか」など、熱心な質疑がかわされました。

普及所では、今後もさんさん市出荷部会の活性化に向け支援していきます。

J A コスモス佐川支所イチゴ部会が園めぐり（現地検討会）および目慣らし会を開催



部会員で園めぐりを実施中

12月2日、佐川支所イチゴ部会の園めぐりと目慣らし会が行われ、15戸の生産者が参加しました。当日は、管内の主要品種である「ゆめのか」と「とちおとめ」について、摘果や水管理など12月以降の栽培管理について確認しました。また、ハダニ防除に使用する気門封鎖剤の効果的な散布方法について意見交換を行うとともに、天敵放飼前に散布する殺ダニ剤の使用方法を確認しました。

普及所では、引き続き天敵を利用したハダニ対策や厳寒期管理など、イチゴ栽培の支援をしていきます。

今年も加工用ワサビの栽培が始まるー中山間地域での面積拡大を目指してー



ワサビ苗の定植状況

当普及所管内では、3年前から加工用ワサビの栽培が始まり、今年は越知町を中心に9名の方が栽培に取り組んでいます。

今年は天候の影響で苗の生育が遅れ、昨年に比べ1ヵ月程遅い12月中旬の定植となりました。そのため、生育に影響がないか心配されましたが、植え付け後の温度やかん水管理が徹底され、生育も順調に推移しています。

栽培経験が少ない生産者も多いことから、普及所では、定植後の温度管理や病害虫防除など、基本的な栽培技術について周知するとともに、技術の習得を支援していきます。

さかわのお客ー佐川町の郷土料理を継承するー



たくさんの郷土料理がずらり！

11月30日、当普及所では「さかわのお客」と題して、佐川町生活改善グループと共催で、佐川町に伝わる料理の講習会を開催し、同グループ員13名、一般参加者6名が参加しました。グループ員が講師となり「田舎寿司」「肉巻きしょうが」など16品を作りました。グループ会長からは「いずれも佐川町内で古くから作られていた料理です。これからも大切にしていましょう」との呼びかけがあり、一般参加者からは「全部おいしい料理でした。家でも作ってみます」と感想がありました。

普及所は、計画策定や参加者の募集、調理作業に関わるなど、講習会開催を積極的に支援し、佐川町の郷土料理を守り、伝えていくことに協力していきます。